

表 シカゴ連銀経済報告(2024年5月29日公表)

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は控えめに(modestly)増加 賃金は緩やかに(moderately)上昇	一部の回答者(特に製造業)は、高技能職の補充が困難であると引き続き報告し、中小企業支援団体は、低技能職の補充が困難であることを報告した。しかし、数社の担当者は、雇用は以前ほど難しくはないと報告し、ある金融サービスの担当者は、労働者の確保はパンデミック前と同程度になったと指摘した。
物価	緩やかに(moderately)上昇	関係者は今後1年間も同様の上昇率を予想した。生産者物価は緩やかに上昇した。非労働投入コストは引き続き上昇し、関係企業はエネルギーコストと設備コストの上昇を指摘したが、コスト上昇のペースは全体的に鈍化している。複数の製造業関係者は、投入コストが横ばい、場合によっては減少していることを指摘した。
個人消費	わずかに(slightly)増加	食料品や外食への支出は増加し、春のガーデニング関連商品への支出は前年を上回った。ディスカウントストアの売上も増加した。耐久消費財は、高金利の影響を受け、全体的に横ばいであった。自動車販売台数は横ばい。販売構成は、コンパクトおよび中型のSUVやクロスオーバーなど、より手頃なモデルに集中している。旅行関連支出はさらに減少した。
企業支出	わずかに(slightly)増加	トラック輸送サービスへの需要は小幅に増加し、運賃にはほとんど変化がなかった。消費財の在庫は多少減少し、より適切な水準で報告期間を終えたが、自動車ディーラーは在庫がやや増加したと述べた。製造業の在庫もおおむね安定した水準であった。
建設と不動産	控えめに(modestly)増加	住宅建設は、戸建て住宅建設の増加に牽引され、わずかに増加した。進行中の多世帯住宅建設プロジェクトの大半は滞りなく進行したが、資金調達の問題から新規プロジェクトの動きが鈍いとの報告もあった。住宅用不動産取引は控えめに増加し、その伸びは中価格帯に集中した。住宅価格は控えめに上昇し、賃料はわずかに上昇した。多世帯住宅の賃料は、地区内の多くの地域で予想を上回る伸びとなった。
製造業	わずかに(slightly)減少	鉄鋼の販売量は全体として横ばいであり、ある担当者は高金利が建設と再生可能エネルギー部門への販売を妨げていると指摘した。自動車産業の受注は全体的にわずかに増加したが、電気自動車部品の需要が減速しているとの報告が複数あった。大型トラックの販売台数は控えめながら増加し、これは予想を上回るペースであった。
金融	わずかに(slightly)引き締まった	債券市場の資産価値は下落、株式市場では控えめに上昇、ボラティリティ(値動きの大きさの度合い)は報告期間の初めに急上昇したが、5月中旬までに低下した。企業向け融資需要は全体的にほとんど変化がなかったが、トラック運送業と商業用不動産部門の低迷が指摘された。消費者向けの融資需要は安定していたが、借入金利はわずかに上昇し、条件はいくらか引き締まった。消費者向け融資の質は低下傾向にあり、ある銀行関係者は、クレジットカードの延滞がパンデミック前の水準を上回ったと指摘した。また、ある銀行関係者は、消費者預金が減少していると指摘した。
農業	農家所得の見込みはわずかに(slightly)増加	バターとチーズの価格は、輸出増加の報告を受けて上昇した。複数の関係者が、修理費、機械部品、燃料のコスト増を指摘した。農家の運転資金の減少に伴い、事業用融資の需要が増加した。
地域社会の状況	経済活動には変化が見られなかった(saw little change)	州政府関係者は、経済活動の成長に伴い税収も堅調であると報告した。関係者の懸念は、景気やパンデミック関連の問題から、長期的かつ依然として残る問題へとシフトした。非営利団体や社会福祉団体は、パンデミック関連の連邦政府財政支援の終了で収入が減ったにもかかわらず、サービスの需要が依然として高いことに苦慮している。またパンデミック関連の税額控除の一部終了に伴い、多くの低所得者層が今年受け取った還付金は少額であった。

(出所)シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成